

# Service Registry リリースノート (Microsoft Windows 版)

バージョン 3 2005Q4

Part No. 819-5889

---

このリリースノートでは、Service Registry 3 2005Q4 (Microsoft Windows 版) のリリース時点における重要な情報について説明します。ここでは、既知の問題点と制限事項、およびその他の情報が説明されています。Service Registry 3 を使用する前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートには、以下の項目があります。

- [リリースノートの改訂履歴](#)
- [Service Registry 2005Q4 について](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題と制限事項](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [その他の情報](#)

---

## リリースノートの改訂履歴

表 1 改訂履歴

日付	変更の説明
2006 年 2 月	商用リリース
2005 年 11 月	初回リリース

---

# Service Registry 2005Q4 について

この節では、Service Registry 3 2005Q4 の特徴と機能、およびサポートされている製品に関する情報を提供します。ここでは、次の内容について説明します。

- [実装に固有の API](#)
- [廃止される予定の機能](#)
- [ハードウェアとソフトウェアの要件](#)

## 実装に固有の API

Service Registry には Java API for XML Registries (JAXR) のバージョン 1.0 仕様が実装されています。JAXR 1.0 は、UDDI および ebXML Registry 2.0 仕様をサポートするように記述されています。Service Registry における JAXR の実装には、JAXR 1.0 に対する非標準の拡張機能が含まれています。これらの拡張 API は、JAXR 仕様の今後のバージョンに対して使用される予定で、将来の JAXR 標準に追加機能として加えることが検討されています。

これらの拡張 API は、Service Registry の今後のリリースにおいて変更される可能性があります。Sun は、Service Registry の今後のリリースでも、これらの API に対する下位互換性を維持するために最善を尽くします。ただし、場合によっては下位互換性が確保できない可能性もあります。Service Registry JAXR プロバイダ内のこれらの拡張は、今後のリリースで変更される可能性があるため、これらの拡張 API を使用する場合は注意してください。

## 廃止される予定の機能

### ユーザー登録メカニズム

Service Registry のこのリリースは、独自のユーザー管理および認証メカニズムに依存しています。Registry の将来のリリースでは、これは SAML ベースのメカニズム (ebXML Registry 標準で指定され、またこのコンポーネントはこの標準の実装) に更新されます。そして、それ以降は、ユーザーの管理と認証に Access Manager が使用される予定になっています。

このリリースでは、Service Registry ユーザーのユーザー登録情報は Service Registry によって維持されています。今後のリリースでは、この情報は Access Manager によって維持されることになっています。ユーザーが Service Registry の今後のバージョンにアップグレードする場合は、登録されたユーザーと Registry の内容との関係 ( 監査証跡など ) を維持するために、ユーザー情報を Access Manager に移行する必要があります。Sun では、こうした移行作業を簡単に行うためのツールを提供する予定です。

## ハードウェアとソフトウェアの要件

Service Registry 3 2005Q4 では、次のソフトウェアが必要です。

表 2 ハードウェアとソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
オペレーティングシステム	Microsoft Windows 2000 Advanced Server Service Pack 4 Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition Microsoft Windows XP Professional Service Pack 2
RAM	512M バイト
ディスク容量	200M バイト

## このリリースで修正されたバグ

次の表は、Service Registry 3 2005Q4 で修正されたバグについて説明します。

表 3 Service Registry 3 2005Q4 で修正されたバグ

バグ番号	説明
6348529	Service Registry をインストールした後の設定中に Windows がスタックします
6327977	Service Registry をアンインストールすると再起動が要求されます

## 重要な情報

ここでは、次の内容について説明します。

- 障害をお持ちの方のためのアクセシビリティ機能

## 障害をお持ちの方のためのアクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能入手するには、Sun に米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。更新バージョンのアプリケーションは、<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。

アクセシビリティに対する Sun の取り組みについては、<http://sun.com/access> を参照してください。

---

## 既知の問題と制限事項

ここでは、Service Registry 3 2005Q4 リリース (Microsoft Windows 版) の既知の問題と制限事項について説明します。

### Organization オブジェクトに対して EmailAddress オブジェクトを取得できない (6290339)

JAXR プロバイダが Organization オブジェクトから電子メールアドレスを取得できません。電子メールアドレスを含む Organization を発行する場合、発行は正常に行われますが、OrganizationImpl.getEmailAddresses メソッドは何も結果を返しません。また、この問題が原因で、Web コンソールには空白が表示されます。

#### 回避策

なし

### Organization オブジェクト間に参照を作成しようとエラーが発生する (6298946)

Web コンソールで、2つの Organization オブジェクトの「選択」チェックボックスを選択して「関連付け」をクリックし、続いて「保存」をクリックしてデフォルトの関係 (オブジェクトの参照) を保存すると、Web コンソールがエラーをレポートします。ただし、詳細なエラーメッセージは表示されません。サーバーログにスタックトレースが表示されます。

### ユーザー名が重複していると、不明なエラーメッセージが表示される (6303812)

Web コンソールで、ユーザーが生成済みの証明書を使用してユーザーアカウントを作成しようとして、すでにサーバーに認識されているエイリアスを指定すると、「ステップ 3」ページで Web コンソールに次のメッセージが表示されます。

エラーが発生しました。サーバーログを確認するかレジストリサポートに連絡してください。

#### 回避策

サーバーログを調べてください。根本的な原因は、スタックトレースの内容に次のように示されます。

原因: `java.lang.Exception: Key pair not generated, alias name already exists.`

**証明書の識別名を作成するときに、登録ウィザードが必要な値を無視してしまう (6312094)**

Web コンソールで、登録ウィザードは、生成する証明書の識別名 (DN) を作成するときに、ユーザーが「新規ユーザーの詳細」ページで指定するいくつかのオプションの値 (「市」、「州または都道府県」、「国」) を使用します。ところがこのウィザードは、ユーザーが「ユーザー認証の詳細」ページで指定する必須の値の 1 つを除き、他の値をすべて無視してしまいます (使用されるのは「名前」の値のみ)。

**回避策**

証明書の DN に市、州または都道府県、国を含めるには、「ユーザー認証の詳細」ページだけでなく「新規ユーザーの詳細」ページでもこれらの値を指定します。

**再インストール後の Service Registry の設定に失敗する (6313327)**

Java Enterprise System のアンインストーラを使用して Service Registry をアンインストールした後、再インストールしてインストール後の設定を行うと、次のエラーが表示されて設定スクリプトが失敗します。

ドメイン registry がすでに存在します。別のドメインを指定してください。

問題は、アンインストーラが Registry の Application Server ドメインを停止または削除しないことです。このタスクは手動で実行する必要があります。

**回避策**

Service Registry を再インストールする前に、Registry の Application Server ドメインを停止して、これを削除します。詳細については、『Service Registry 3 2005Q4 管理ガイド』の「Service Registry の再インストール」を参照してください。

**-alias オプションを使用すると管理ツールが正しく動作しない (6313791)**

管理ツールを使用して管理者アクセス権の必要なタスクを実行しようとする、スタックトレースと NoClassDefFoundError が発生します。このエラーの原因は、管理ツールの JAR ファイルのマニフェストクラスパスからファイルが 1 つ欠落していることにあります。

**回避策**

なし

**ExtrinsicObject または ExternalLink を不正な Concept を使用して作成するとエラーが発生する (6318002)**

Web コンソールで、ExtrinsicObject を作成して ExtrinsicObject 以外の Concept の下にある Concept を選択した場合、正しく作成できたように見えますが、実はエラーが発生しています。ExternalLink を作成して ExternalLink 以外の Concept の下にある Concept を選択した場合も、同じ問題が発生します。

このエラーは、サーバーログに NullPointerException として表示されます。

Concept が RegistryObject の下にある別のサブコンセプトである場合は、主な影響として、作成したはずの新しいオブジェクトを検索しても見つからないという現象が発生します。Concept が ObjectType 以外の ClassificationScheme の下にある場合は、データベースが破損しています。この場合、サーバーを再起動するとランタイムエラー (InvocationTargetException) が発生します。

オブジェクト型の Concept は、ExtrinsicObject または ExternalLink の Concept 内のサブコンセプトでなくてはなりません、Web コンソールはこの要件を強制しません。

### 回避策

管理ツールを使用して、不正な Concept を使用しているオブジェクト ( 複数の場合もある ) を見つけ出します。select コマンドを使用してオブジェクトを見つけ、rm コマンドを使用してこれらを削除します。このタスクでは、次の手順を実行します。

1. 『Service Registry 3 2005Q4 管理ガイド』の「レジストリ用 Application Server ドメインを停止および再起動する方法」にある説明に従って、Service Registry を再起動します。
2. レジストリ管理者または破損したオブジェクトの所有者のどちらかとして、『Service Registry 3 2005Q4 管理ガイド』の「管理ツールの起動」にある説明に従って、管理ツールを起動します。
3. 次のように入力して、データベース内の最上位の位置に移動します。admin> cd /
4. select コマンドを使用して、削除するオブジェクトを表示します。

レジストリ管理者としてツールを起動した場合は、次のコマンドを使用します ( すべてを 1 行に記述 )。

```
admin> select ro.* FROM RegistryObject ro, ClassificationNode cn WHERE  
ro.objectType = cn.id AND NOT ( cn.path =  
'/urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:classificationScheme:ObjectType/Registry  
Object'
```

または cn.path を次のように指定します。

```
'/urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:classificationScheme:ObjectType/Registry  
Object/%' )
```

オブジェクトの所有者としてツールを起動した場合は、次のコマンドを使用します ( すべてを 1 行に記述 )。

```
admin> select ro.* FROM RegistryObject ro, ClassificationNode cn,  
AffectedObject ao, AuditableEvent ae WHERE ro.objectType = cn.id AND  
ae.user_ = $currentUser AND ao.id = ro.id AND ao.eventId = ae.id AND NOT  
( cn.path =  
'/urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:classificationScheme:ObjectType/Registry  
Object'
```

または cn.path を次のように指定します。

```
'/urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:classificationScheme:ObjectType/Registry  
Object/%' )
```

5. rm コマンドを使用して、オブジェクトを削除します。削除する各オブジェクトの URN を、次のように指定します。

```
admin> rm urn1 urn2 ...
```

6. もう一度 `select` コマンドを実行して、オブジェクトが `Registry` 内に残っていないことを確認します。

#### オブジェクト作成用の `AuditableEvent` を削除すると例外が発生する (6323057)

影響されるオブジェクトのリストにユーザーの所有するオブジェクトが1つ以上含まれている `AuditableEvent` を削除すると、影響されるオブジェクトの監査証跡が壊れてしまいます。特に、ユーザー独自の `User` オブジェクトに対する `Created` イベントを削除した場合は、重大な問題が発生します。たとえば、このイベントを削除してしまうと、`FindAllMyObjects` 検索を実行するたびにランタイム例外が発生します。

#### 「適用」ボタンをクリックする前にリポジトリ項目を表示しようとするとエラーが発生する (6324423)

Web コンソールで、`ExtrinsicObject` を作成してリポジトリ項目を追加する場合、「保存」または「適用」ボタンのどちらかをクリックしなくても、ファイルをアップロードするとすぐに「リポジトリ項目の内容を表示」リンクがアクティブになります。「適用」をクリックする前にこのリンクをクリックすると、エラー 404 メッセージが表示されます。リンクは、有効なリンクになる前にアクティブにするべきではありません。

#### 回避策

「適用」をクリックする前にリポジトリ項目を表示しようとしないでください。

#### 発行操作間で、`ClassificationScheme` の以前の表示が残ったままになる (6297023)

Web コンソールで、`ClassificationScheme` からの `Concept` の選択に関する `ExtrinsicObject` または `ExternalLink` などのオブジェクトを発行した場合、次に別のオブジェクトを発行したときに、2つ目のオブジェクトの型が別のものであっても、同じ場所に `ClassificationScheme` ウィンドウが表示されません。

同様に、`Classification` による検索を実行した後に、検索フォームを閉じる別の何らかの操作 (発行操作など) を実行した場合、もう一度検索フォームを開いても、`ClassificationScheme` の表示は検索フォームを閉じたときと同じ状態のままになります。

#### いくつかの検索で予期しない結果が返される (6312083)

Web コンソールで、`Person` オブジェクトまたは `User` オブジェクトを名前で検索したときに、データベース内にあらかじめ定義されているユーザーや、`Name` の代わりに `PersonName` の定義された `Person` オブジェクトまたは `User` オブジェクトは返されません。また、名前に特定の数の文字が含まれているオブジェクトを検索 (たとえば、検索文字列「\_」を使用して2文字の名前を検索) すると、指定した数以外の数の文字が名前に含まれている多くのオブジェクトが返されます。

#### 証明書のアップロードオプションを使用してユーザーアカウントを作成中に問題が発生する (6338836)

Web コンソールで、認証の失敗によって、サードパーティー証明書のアップロードオプションを使用するユーザー登録が失敗します。登録が失敗すると、次のエラーが表示されます。「認証に失敗したため、操作に失敗しました。お使いの Web ブラウザにクライアント証明書がロードされていないため、認証が失敗しました。」

#### 回避策

ユーザーアカウントを作成する場合は、レジストリが生成した証明書を使用します。『Service Registry 3 2005Q4 ユーザーガイド』の指示に従ってください。

---

## 問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Service Registry で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun のカスタマサポートに連絡してください。

- Sun ソフトウェアのサポートサービスのオンライン  
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトには、保守プログラムおよびサポートの連絡先電話番号へのリンクに加え、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、Product Tracker へのリンクがあります。

- 保守契約に対応した電話番号

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際は次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した場所および操作に与える影響を含む、問題の説明
- マシンの種類、オペレーティングシステムのバージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題が発生するまでに使用していた詳細な手順または方法
- エラーログまたはコアダンプ

## コメントの送付先

Sun では、ドキュメントの品質向上のために、ユーザーの皆様のコメントおよびご提案をお待ちしております。

コメントをお送りになる場合は、<http://docs.sun.com/app/docs?l=ja> にアクセスして「コメントの送信」をクリックしてください。オンラインフォームで、マニュアルのタイトルと Part No. を入力します。Part No. はガイドのタイトルページまたは最上部に記載されている 7 桁または 9 桁の番号です。



---

## その他の情報

次の Web サイトには、Sun Java System の有益な情報があります。

- Sun Java System Service Registry のマニュアル  
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1314.1>
- Sun のソフトウェア製品およびサービス  
<http://www.sun.com/software>
- Sun 開発者向け情報  
<http://developers.sun.com/>
- Sun 開発者サポートサービス  
<http://developers.sun.com/prodtech/support/>
- ソフトウェアサポートサービス  
<http://www.sun.com/service/support/software/>
- Sun Java System ソフトウェアサポートサービス  
<http://www.sun.com/support/>
- Sun のコンサルティングサービスおよびプロフェッショナルサービス  
<http://www.sun.com/service/sunjavasystem/sjsservicesuite.html>

---

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、このマニュアルで説明されている製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標もしくは登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他の情報